

【小施策評価(平成30年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	1	人がいきいきと暮らすまちづくり	小施策 主管課等	男女共同参画推進室	
施策	7	人権尊重・男女共同参画の推進	評価 責任者	佐藤 篤	内線 2110
小施策	7-2	男女共同参画の推進	評価 シート 作成者	高橋 信朗	内線 2160

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
男女共同参画意識の高揚と活動支援に関しては、企業、地域など、社会全般において指導的地位における女性の登用が少ないことから、庁内の審議会などにおける女性委員就任率も目標を下回っており、女性の参画機会の更なる拡大が望まれている。 また、配偶者などからの暴力(DV:ドメスティック・バイオレンス)は、基本的人権の重大な侵害であり、その防止や被害者保護のためさまざまな法整備がなされてきたが、相談件数は増加傾向にある。DV防止のための啓発や被害者支援の充実を一層推進する必要がある。	性別などにかかわらず、お互いを理解しながら個人を尊重し合う男女共同参画社会を実現するために、意識啓発や支援、女性の参画機会の拡大を図る。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民	社会のあらゆる分野で男女共同参画意識を持ち、性別に関らず個性と能力を十分に発揮できる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成30年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
指標① 男女共同参画サポーター認定者数	人	→	成果点	⇒	成果の要因分析
当初値 (H25) 6	R1目標値 6	R6目標値 6	・男女共同参画サポーター認定者は増加している。	⇒	・県が、主催する「男女共同参画サポーター養成講座」を市民が受講(男女共同参画の基礎知識を習得)することにより、男女共同参画の意識の向上が図られている。講座修了者は、男女共同参画サポーターとして、県知事認定される。
			問題点	⇒	問題の要因分析
			・男女共同参画サポーターの活躍する場が少ない。	⇒	・サポーターや男女共同参画推進の活動をしている団体・グループとの情報共有が不足している。
指標② DV相談新規人数	人	→	成果点	⇒	成果の要因分析
当初値 (H25) 149	R1目標値 150	R6目標値 150	・DV相談新規人数は減少傾向にあるが、相談件数は高めに推移している。	⇒	・DV防止週間に街頭キャンペーンを継続して実施しており、多くの市民への意識啓発となり、相談につながっている。
			問題点	⇒	問題の要因分析
			・DV相談内容が複雑化している。	⇒	・児童虐待や精神障害など複数の困難を抱えている世帯が増加している。
指標③ 女性の起業・就業支援事業を受講した人のうち就業・起業した人数	人	↗	成果点	⇒	成果の要因分析
当初値 (H25) 5	R1目標値 25	R6目標値 50	・女性の起業・就業支援事業を受講した人のうち、就業・起業した人数は着実に増加している。	⇒	・女性の経済的自立支援(就職・再就職・起業)のための女性センター「起業応援ルーム芽でるネット」において、起業や就職支援に関する講座、相談、パソコン指導等を受けることにより、経済的自立につながった。
			問題点	⇒	問題の要因分析
			・講座の夜間開催や個人のスキルの状況に応じたレベル毎の講座開催など要望の多様化への対応。	⇒	・土日も含め昼間働いている者(再就職や転職希望・学び直し)が受講を希望するため、夜間開催を希望する者が多い。 ・受講者のレベルに差がある。

今後の方向性(令和元年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
<ul style="list-style-type: none"> ★ サポーターや男女共同参画推進の活動をしている団体との交流を密にし、今後の事業での活動の場を検討していく。 ★ サポーターに男女共同参画に関するイベントや講座等の情報を提供することにより、サポーターの活動促進を図る。 	
<ul style="list-style-type: none"> ★ 「DV被害者窓口対応の手引き」を各窓口担当部署に配付し、職員研修及び担当者会議を行うことにより、適切な被害者支援と庁内連携体制の構築を図る。 ☆1 DV相談者の特徴として、住民登録のある市町村の福祉事務所等を相談機関に選ばないケースがあるほか、児童虐待や精神障害等が絡み相談内容が複雑化・多様化する状況にあることから、庁内、関係市町村、関係機関と連携を図りながら被害者支援を進める。 	
<ul style="list-style-type: none"> ★ パソコン講座は、再就職や転職などを視野に入れた学び直しの機会という位置づけも念頭に、テーマを需要の多いものに絞り込む、講座ごとのレベルを明確化するなど工夫していく。 ★ 起業講座に加えて起業を希望する女性と起業した女性の交流を図るイベントを開催する。 	

実績値の推移				実績の評価		評価を踏まえた取組の方向性
単位		目指す方向		成果点	成果の要因分析	
指標④ 各審議会の女性委員登用率				%	↗	★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討 ★ 人材育成講座や男女共同参画に関する情報を提供することにより、様々な分野への女性の参画を促す。 ★ 担当課あてに女性委員登用の啓発と取組依頼を強化する。
当初値 (H25)	31.7	R1目標値	37.0	R6目標値	40.0	
・女性登用率向上への機運の醸成の定着がみられる。				・改選期を迎える審議会等の担当課へ個別に積極的な女性の登用を呼びかけたことにより、登用率向上への機運の醸成が図られている。		
問題点				問題の要因分析		
・分野によって女性委員がいない審議会がある。				・女性の割合が少ない専門分野がある。 ・団体の代表などの長に女性が少ない。		
指標⑤ 女性人材バンク登録者数				人	↗	★ 女性人材バンクへの新規登録のための情報収集と登録依頼, リストの運用方法を検討する。 ★ 新規登録者を増やすため, 男女共同参画に関する情報や女性センターの各講座等の周知方法を検討し, 改善していく。
当初値 (H25)	130	R1目標値	165	R6目標値	180	
・人材バンク登録者のリストの貸出件数が増えている。				・「女性人材リスト」の活用について, 改選期を迎える審議会等の担当課へ個別に積極的な女性の登用を呼びかけ, 併せて人材リスト活用の周知を図った。		
問題点				問題の要因分析		
・女性人材バンク登録者数が減少傾向にある。				・登録者の高齢化による登録の更新辞退が増えている。 ・女性センターにおける講座等参加者が固定化, 高齢化している。 ・市民への周知が十分でなく, 講座等への参加者が少ない。		